第５学年社会科学習指導案

日　　時　　平成 29 年 10 月 24 日（火）

場所

指導者

学校司書

１　小単元名

わたしたちが新鮮な魚や加工品を食べられるのはなぜだろう？「水産業のさかんな地域」（東京書籍）

２　小単元の目標

我が国の水産業に関心を持ち，水産業が自然環境を生かして国民の食生活を支えていることや，魚介類の輸入，主な漁場の分布，水産業に従事する人々の工夫や努力，輸送の働きを理解し，水産業の発展について考えることができるようにする。また，我が国の水産業の様子から学習問題を見いだし，資料を活用して調べたことをノートなどにまとめるとともに水産業の様子と自然環境，わたしたちの生活を関連付けて思考・判断したことを適切に表現できる。

３　小単元の評価目標

○ 我が国の水産業の様子に関心を持ち，水産業が盛んな地域の生産活動について意欲的に調べたり，自分たちの食生活を支える水産業の発展について考えようとしたりしている。
（社会的な事象への関心・意欲・態度）

○ 我が国の水産業の様子について水産業が盛んな地域の事例を調べるための学習問題や予想，学習の計画を立て，表現している。（社会的な思考・表現・判断）

○ 水産業がわたしたちの食糧を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりを持って営まれていることを考え，適切に表現している。（社会的な思考・表現・判断）

○ 水産業が盛んな地域を事例として，我が国の水産業の様子について，地図や，統計などの各種資料を活用して読み取っている。（観察・資料活用の技能）

○ 水産業が盛んな地域の生産活動の様子や努力について調べたことを，ノートにまとめている。
（観察・資料活用の技能）

○ 水産業に携わる人々が自然環境を生かすなど様々な工夫や努力をしたり，新鮮さを保ちながら輸送したりして自分たちの食生活を支えていることを理解している。（社会的事象についての知識・理解）

○ 我が国は世界有数の水産国でありながら，漁場の変化や水産資源の減少などの問題を抱え，養殖業や栽培漁業，魚介類の輸入が増えていることを理解している。（社会的事象についての知識・理解）

４　情報活用能力とのかかわり

「大田市小・中学校　情報活用能力指導体系表 2013 年版」における【年鑑・統計の利用】，【地図の利用２】及び【情報カード】の要約，資料などから得た情報と思考した内容とを分けて書く能力を高める学習である。また，次単元「これからの食料生産とわたしたち」でも継続して指導する。

５　単元について

（１）教材について

本単元は学習指導要領解説社会編には以下のように位置づけられている。

第５学年 （２）我が国の農業や水産業について，次のことを調査したり地図や地球儀，資料などを活用したりして調べ，それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする。 　　ウ　食料生産に従事している人々の工夫や努力，生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

本単元では，我が国の水産業がわたしたちの食生活を支えており，自然環境と深い関わりをもち，水産業に携わる人々の工夫や努力によって営まれていることを理解するのがねらいである。

児童はこれまでに我が国の食料生産について，「くらしを支える食料生産」，「米づくりのさかんな地域」を学習している。「くらしを支える食料生産」では，普段の食卓に上る食材は，日本に分布する主な産地を中心に生産されており，それらは自然環境（気候や土地の特徴など）と深い関わりをもち生産されていることを学習している。また，「米づくりのさかんな地域」では，米づくりに適した自然環境，農家の人たちの米づくりの工夫や努力，農家を支える様々な仕組み，米の流通経路，農家が抱える課題について学習してきている。これらの学習から，わたしたちが普段食べている食物は，それらが適した自然環境のもとで生産され，それらを生産する人々は何かしらの工夫や努力をしていることを学習している。

本単元では，漁法，諸外国との 200 海里水域という関係など，児童にとって理解しにくい内容を取り扱う。そこで，図書資料や漁師さんの話などを取り入れ，自分たちに身近なことであり，自分たちの食生活にも影響があることに気付くようにしたい。さらに，水産業も自然環境と深い関わりをもつこと，水産業に携わる人々の工夫や努力があることを理解できるようにしたい。

3）指導にあたって

本単元では，水産業に携わる人々の工夫や努力によって自分たちの食生活が支えられていることを理解できるようにしたい。そのために，図書資料や写真，グラフや映像資料を活用し，児童に想像しやすい教材を準備し，水産業に携わる人々が何をしているのかを理解しやすくしたい。また，図書資料や社会科資料集，インタビューなどから，水産業に携わる人々の工夫や努力を調べ，「プラスカード」に記入していき，わたしたちが新鮮な魚や加工品をおいしく食べられるのは水産業に携わる人々の工夫や努力のおかげであることに気付けるようにしたい。また，統計資料から「分かったこと」「気付いたこと」をノートに書く活動を取り入れるだけでなく，「そこから考えられることは何か」を考え，グループで話し合う活動を取り入れることで，よりよい考えを導きだしたり，多様な考え方をしたりする力を育んでいきたいと考えている。

導入では寿司を題材にし，日本のどの地域でとれる魚なのかグラフや地図，年鑑などから調べたり，そこからどうやってわたしたちが住む土地まで運ばれてくるのかを予想したりして「わたしたちが新鮮な魚を食べられるのはなぜ？」という学習課題を設定する。また，学習の見通しをもたせるために学習スケジュールを児童に示すことで，水産業の何を学習しているのかを明確にしたい。

「沖合」「遠洋」「一本釣り」などの漁法を学習する際には，「底引き網」や「まき網」などの漁法を映像で確認したり，一日漁をしている漁師さんにインタビューしたりすることで，それぞれの漁法の工夫や漁師さんたちの工夫や努力に気付けるようにしたい。また，つくり育てる漁業では，松江市にある島根栽培漁業振興センターで育てられている稚魚の写真などを見せ，島根県でも栽培漁業に取り組んでいることを知り，資源は大切なものでありこの先も魚を食べていくには人間が資源を管理し守っていく必要があることを理解できるようにしたい。

水産業に興味・関心をもたせるための工夫

○学校図書館の活用

児童が，「社会科でも図書館の資料や本を使えば，知らないことが分かる。」「調べたかったことが解決できる。」という喜びや発見を実感するために，学校図書館を活用していく。

水産業について，主に魚や漁法，加工品に興味・関心をもたせるために，学校司書によるブックトークを行う。様々な魚の漁法や，魚の特徴など 6 類を中心に選書し，児童に紹介する。これらの本は，教科書の内容を詳しく説明している本から，日本各地で行われている漁法について紹介している本まで様々である。写真や絵も多いことから，児童が読みやすいことが考えられる。紹介した本は，いつでも読めるように，教室内に置いておき朝読書の時間や隙間時間に読めるように環境を整えておく。

○プラスカード（情報カード）の活用

ブックトークで紹介してもらった本や教科書，社会科資料集などから，「水産業に携わる人たちの

工夫や努力」をプラスカードに記入する。プラスカードは，ブックカートに置いておき，隙間時間にも記入することができるようにしておく。このプラスカードは最後の本時に活用し，「水産業に携わる人々の工夫や努力」に目を向け，その人々の工夫や努力がわたしたちの食生活を支えていることを理解するために活用していきたい。

○掲示物の活用

日本地図を後ろに掲示したり，授業で学習した内容をまとめて掲示したりすることで，児童が水産業で何を学習しているのかをいつでもふり返ることができる環境にする。また，授業が進むごとに掲示が増えることで，児童にも知識が積み重なってきたことを実感させ，掲示物から児童同士の交流が生まれることを期待したい。

考えを伝え合う場面の工夫

○個の時間の確保

資料を読む時間を保障し，資料を読んで分かったことを箇条書きでノートに記入させる。そこから，「何が考えられるのか」「何が困っているのか」「これからどうなっていくと考えられるか」等をノートに記入させ，個の考えをしっかりともてるようにする。困っている児童や難しい児童には，ヒントを出したり，具体的な数値を読んだりすることで自分の考えがもてるようにする。

○グループやペアの活用

個で考える時間を確保した上で，必要に応じてペアやグループで相談させ，資料から分かることやそこから考えられることを深めていく。

資料を読む技能を高めるための工夫

○必要なキーワードを見つけさせたり，下線を引いたりする活動を取り入れる。

児童の実態から，資料の中から必要な個所を見つけ出す力に個人差が大きいことがある。「今，何を探しているのか」「資料のどこを読めば良いのか」分からないため，必要な個所を見つけることが難しいと考えられる。また，普段から本を読むことに慣れていないこともその理由として考えられる。そこで，資料を読む前に，キーワードを明確にし，キーワードを○で囲ませたり，必要な個所に下線を引かせたりしながら読む時間を確保したい。さらに，資料を読む前に，まず小見出しを読ませ，その文章がこれから探す内容と合致しているかどうかを判断させ，必要がある箇所を重点的に読んでいくことを推奨していく。

○様々な統計資料を読む。

国語科と関連させ，資料の読み方の学習を取り入れる。国語科で扱う統計資料は，写真，円グラフ，ホームページなどからの情報であるが，加えて棒グラフや折れ線グラフも扱い，グラフの特徴や読み方を学習し，社会科でもその読み方を生かして学習できることを意識させる。

6　小単元構造図

【学習指導要領】

（2）我が国の農業や水産業について，次のことを調査したり地図や地球儀，資料などを活用したりして調べ，それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

ウ　食料生産に従事している人々の工夫や努力，生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

【中心概念】
水産業はわたしたちの食生活を支えており，それらは，自然環境と深いかかわりをもち，水産業に携わる人々の工夫や努力によって営まれている。

① 日本人の食生活と水産業のかかわりが深いことに気付く。
水産業　漁法　水揚量　海流　大陸棚　２００海里

③ まき網漁法を基に沖合漁業とはどんな漁業なのか考え、まとめることができる。
沖合漁業　回遊　群れ　まき網漁

④ 漁港には様々な機能があり、新鮮なうちに消費地へ届けるための運送の工夫があることを理解することができる。
せり　急速冷凍　冷凍車　水産加工団地

⑤ まき網漁業とカツオの一本釣り漁法の工夫の比較から遠洋漁業の特徴について気付くことができる。
一本釣り漁　大型船　遠洋漁業　急速冷凍車

⑥ 焼津漁港を調べることを通して、カツオの水揚げが多い理由について理解することができる。
鰹節工場　高速道路　２００海里　輸入

⑦ つくり育てる漁業は、獲る漁業を補うために計画的に行われていることを知り、それらの工夫について考えることができる。
養殖　栽培漁業　つくり育てる漁業　放流　稚魚

⑧ 水産業が盛んな地域の人々の工夫や努力についてより深く知ったことを伝え合い、わたしたちの食生活を支えていることを理解することができる。
水産業　沖合漁業　遠洋漁業　加工　輸送　養殖　栽培漁業

② 水産業に関するブックトークを聞き，本に進んで親しみ，新しい知識を得ようとする。

7　小単元の指導計画（全８時間）

社会科
「わたしたちが新鮮な魚や加工品を食べられるのはなぜだろう？」

国語科
「資料を生かして考えたことを書こう」

次	時	目　標	学習活動	主な評価の観点				主な評価規準 （評価方法）
				関	考	技	知	
一	1	日本人の食生活と水産業のかかわりが深いことに気付く。	寿司ネタからわたしたちの食生活に魚介類は関わりが深いことに気付き，年鑑を使って調べるなどして，水産業について関心を高める。	◎				水産業に関心をもち，普段食べている魚はどうやって自分たちの食卓に上っているのか予想したり，発言したりする。（発言・行動観察）
	2	水産業に関するブックトークを聞き，本に進んで親しみ，新しい知識を得ようとする。	水産業に関する本を紹介してもらい，水産業について興味・関心を高め，水産業とは何か，漁法にはどんなものがあるかなど，新しい情報を得る。	◎				自分から進んで本を読み，水産業について興味・関心をもち，情報を得ようとしている。（行動観察）
二	3	○まき網漁法を基に沖合漁業とはどんな漁業なのか考え，まとめることができる。	豊富な漁場を持つ日本には，いくつかの水産業の形態があり，その中でも特に生産の多い沖合漁業についてまき網漁を基にしながら考える。 また，二次を通して水産業に携わる人々の工夫や努力をプラスカードに記入していく。			◎		沖合漁業について資料を活用して調べ，代表的な沖合漁業の漁法やそこで働く人たちの工夫や努力を読み取り，ノートにまとめている。（ノート記述・プラスカード・発言）
	4	○漁港には様々な機能があり，新鮮なうちに消費地へ届けるための運送の工夫があることを理解することができる。	長崎漁港で水揚げされた魚が出荷されるまでの流れから，港には魚を新鮮に保つ人々の工夫や施設があること，輸送でも素早く届ける工夫があるということを調べる。				◎	漁港には様々な機能があり，新鮮なうちに消費地へ届けるための様々な工夫がされていることを理解している。（ノート記述・プラスカード・発言）
	5	○まき網漁業とカツオの一本釣り漁法の工夫の比較から遠洋漁業の特徴について気付くことができる。	カツオの一本釣り漁法には，消費者のニーズに応えるためのいくつかの工夫があり，それらを基に遠洋漁業について考えることができる。		◎			遠洋漁業に関心を持ち，代表的なカツオの一本釣りから様々な特徴や工夫に気付いてノートにまとめながら表現している。（ノート記述・プラスカード・発言）
	6	○焼津漁港を調べることを通して，カツオの水揚げが多い理由について理解することができる。	静岡県の焼津漁港を基に，水産業の盛んな漁港には共同で使える加工施設等があるということを知る。				◎	焼津漁港に日本一カツオが水揚げされる理由として，大都市への利便性や水産加工団地の充実などが関係していることを

								理解している。（ノート記述・プラスカード・発言）
	7	○つくり育てる漁業は，獲る漁業を補うために計画的に行われていることを知り，それらの工夫について考えることができる。	島根県で行われている養殖や栽培漁業を基に，つくり育てる漁業が国民の食卓や水産業全体を支えるために様々な工夫をしながら，行われてきたことを調べる。		◎			遠洋漁業や沖合漁業と比較しながら，つくり育てる漁業が計画的に安定して行われるという特徴を考え，まとめている。（ノート記述・プラスカード・発言）
三	8（本時）	○水産業が盛んな地域の人々の工夫や努力についてより深く知ったことを伝え合い，わたしたちの食生活を支えていることを理解することができる。	水産業に携わる人たちの工夫や努力について調べたことを伝え合い，工夫や努力についてグループでまとめて発表する。				◎	水産業に関わる人々の様々な努力や工夫によってわたしたちの食生活が支えていることを理解することができる。（発言・プラスカード・ふり返りカード記述）

８　本時の学習計画

（１）ねらい

水産業が盛んな地域の人々の工夫や努力についてより深く知ったことを伝え合い，わたしたちの食生活を支えていることを理解することができる。

（２）展開（８／８）

時間	学習活動・予想される児童の反応	教師の支援	○資料 ☆評価（評価方法）
２分	**1　小単元の学習テーマを確認する。（全体）**	・ノートを見返したり，後ろの掲示物を確認したりするように声をかける。	
３分	**2　学習課題を伝える。** 「わたしたちの家に新鮮な魚や加工品が届くまで」の工夫や努力マップを作ろう！ ・今までためたプラスカードを使って，マップ作りをする。そのカードを選んだ理由をグループで発言すると良いことを伝える。		
５分	**プラスカードを選ぶ。（個人）** ・今までためていたプラスカードの中から友達にぜひ伝えたいものを選ぶ。 ・工夫や努力が伝わるように，プラスカードに工夫をする。（○や下線など） ・「アジ」を捕る漁法についてはぜひ友達にも伝えたいな。 ・船にも，新鮮な魚を運ぶ工夫があったな。 ・栽培漁業で，水温をしっかり管理しているのも伝えたいな。	・困っている児童には，声をかけたり一緒に作業したりする。 ・プラスカードの中で紹介すると良いと思うものがあれば，個別に声をかける。	○プラスカード ○模造紙 ☆水産業に携わる人たちの工夫や努力に気付き，その工夫や努力を友達に話すことができる。
２０分	**3　工夫や努力マップ作りをしよう。（グループ）** ・グループでまとめる際に，カードをたくさん出すのではなく，ぜひ他の班の人に伝えたいプラスカードを選んでいくとよいことを伝える。 ・グループで話し合う中で，考えられることやそのカードを選んだ理由を吹きだしなどで記入すると良いことを伝える。 ・輸送トラックは，わたしたちがおいしく食べるために－40 度まで冷やしているなんてすごい！ ・漁師さんたちが行っている漁法は，それぞれの魚の特性を生かして捕まえる方法ばかりだな。 ・漁港に着くまで新鮮に魚を運ぶために船には大きな水槽があるんだな。	・おすすめのプラスカードの内容を紹介しにくい児童がいれば，声をかけ一緒に話し合いに参加する。 ・なぜそのカードを選んだのか，言いにくい児童には，どこがすごいと思ったかなどを質問し，理由を話しやすくする。	

１０分	**4　お互いの意見を聞きあう。（グループ）** ・班の発表者を１名，違う班の発表を聞きに行く３名を決める。 ・発表者にマップを指しながら説明すると伝わりやすいこと，発表を聞く人には後で班の人に聞いたことを伝えることを確認しておく。 ・説明を聞く人には，自分の班と同じ，違う工夫や努力を探しながら聞くことを確認する。 ・発表が終わった後は，それぞれが聞いたことを自分の班の人に説明する。	・聞きに行く人の視点と，発表する人の視点を分けて，これから何をするか伝える。 ・発表しているときは，グループを回り，困っている様子が見られたプラスカードや吹きだしを読み直すよう声をかける。	
５分	**5　ふり返りをする。（個人）** ①　水産業に携わる人たちがしている工夫や努力は何のためか ②　水産業について考えたこと，思ったこと，もっと調べてみたいこと をワークシートに記入する。 ・僕たちに魚がたくさん買えるように、漁師さんたちは魚によって取り方を変えてできるだけたくさんの魚を捕ろうとしているんだなと思った。 ・わたしたちにおいしい魚を届けるために、トラックに工夫していたり高速道路を走ったりしているんだなと思いました。 ・わたしたちが食べている魚は、たくさんの人たちの工夫や努力によって食べることができているんだなということが分かりました。	・文章で書けない子には，まず話をしてから書くようにする。	○ふり返りカード ☆水産業に携わる人々の工夫や努力があり，その人々の工夫や努力があることで自分たちの食生活が支えられていることに気付き，ノートに記入している。

（３）予想される児童の具体的な姿

十分に満足できる	おおむね満足できる	支援を必要とする児童への手立て
プラスカードを基に，水産業に携わる人々の工夫や努力を友達に伝えることができ，考えや意見も合わせて伝えることができる。また，水産業に携わる人々の工夫や努力により自分たちの食生活が支えられていることを理解し，ふり返りシートに記入することができる。	プラスカードを基に，水産業に携わる人々の工夫や努力を友達に伝えることができる。また，水産業に携わる人々の工夫や努力により自分たちの食生活が支えられていることに気付き，ふり返りシートに記入することができる。	・水産業に携わる人々の工夫や努力を上手く伝えられない児童。 →プラスカードを選ぶときに一緒に選ぶ。 →プラスカードについて伝えるときの話し方を一緒に考える。 ・ふり返りが書けない児童 →本時で心に残った工夫や努力を，マップを見ながら記入するように伝える。 →わたしたちがなぜ新鮮な魚や加工品が食べられるのか一緒に考える。

（４）研究の視点

・水産業に携わる人たちの工夫や努力について理解を深めるために，プラスカードを用いて伝え合ったことは有効だったか。

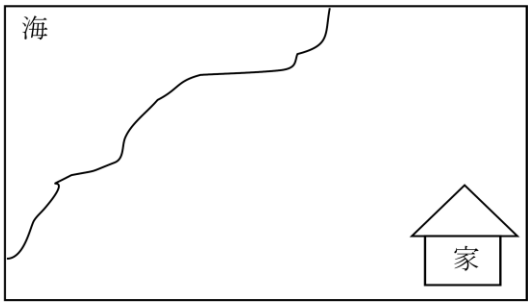
・グループで伝え合ったことは，水産業に携わる人たちの工夫や努力がわたしたちの食生活を支えていることを理解することに有効だったか。

（５）板書計画

10/24

め　「わたしたちの家に新鮮な魚や加工品が届くまで」の工夫や努力のマップを作ろう！

プラスカードを整理しよう



考えたこと→　考
理由　　→　理
文章×　メモ○

ふ　①水産業に携わる人々の工夫や努力は何のためか

②水産業について考えたこと，思ったこと，もっと調べてみたいこと